

P1-005

年長児にからだを教える「からだ先生」の活動

菱沼 典子¹、瀬戸山 陽子²、村松 純子³、
原山 千咲¹、淵 純子¹、島田 恵¹、白木 和夫¹¹NPO法人からだフシギ、²東京医科大学、³BABY in ME

【目的】

NPO からだフシギでは、身体を知ることを通して、日々の生活の中でからだを大事にすること、健康を考えることを目指し、幼稚園・認定こども園・保育所の年長児向けの教材開発や教育プログラムを開発してきた。また教育プログラムの実施者の育成のために、「からだ先生」研修会を行ってきた。今回、「からだ先生」研修会の在り方や、活動の方向性を検討するために、研修会参加後の活動状況について、アンケート調査を行ったので報告する。

【方法】

研修会の第1回（2016年8月）から第7回（2020年1月）の参加者131名を対象に、「からだ先生」としての活動状況を、Webアンケートにて調査した。調査項目は活動実績と研修会が役に立ったかどうかと属性で、2020年8月に実施した。調査結果は項目ごとに集計し、自由記述は内容の類似性で分類した倫理的配慮：アンケートに個人特定につながる項目はなく、回答は自由意思によるものとした。利益相反にかかる事項はない。

【結果】

アンケートの回答者数は38名（回収率29.0%）であった。年代は10代から70代に分布し、40代50代が65.8%を占めていた。持っている資格（複数回答）は、看護師23名、保健師9名、助産師、養護教諭各7名、司書6名、保育士3名、幼稚園教諭、社会福祉士、介護支援専門員、学芸員等が各1名であった。職場は学校9名、保育所7名、医療機関5名、図書館3名等であった。研修会より以前に、子どもにからだの話をしたことがあるが14名（36.8%）、ないが24名（63.2%）であった。研修会后、子どもにからだの話したことがあるが24名（63.2%）、ないが14名（36.8%）で、話した場所は、自宅、認定こども園、保育所、小学校、小児外来であった。研修会については全員が役に立ったと回答し、人脈ができた、子どもにからだのことを教える有用性がわかった、子どもたちに話す方法を学べたなどが挙げられた。

【考察】

「からだ先生」研修会の参加前から子どもにからだの話をした経験があったのは14名で、研修会后に24名に増加していた。研修会が子どもに話すきっかけになり、また研修会を終えることで、子どもにからだを伝えていく役割を取りやすくなったことがわかった。今後さらに、「からだ先生」を育成し、また「からだ先生」のネットワークを作ることで活動を推進していきたい。

P1-006

わが国の保育現場における新型コロナウイルス（COVID-19）予防対策に関する文献レビュー

安田 望実

人間総合科学大学 心身健康科学科

i. 目的

2020年1月から続く新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックは現在も保育施設に多大な影響を与えている。集団下で乳幼児間での感染拡大を防ぎ安全を確保していくため、保育施設で勤務する看護師（以下：保育園看護師）たちは園児の感染予防対策を行っている。しかしながら、保育園看護師の配置自体が少なく、園児の健康を守る専門家としての相談や意見交換ができない中で、個々の施設で試行錯誤しながら予防対策を講じていると思われる。そこで、保育現場での新型コロナ感染症対策の実態および課題、研究動向を明らかにすることを目的とした。そこから、限られた人員でも確実に園児を感染から守るための有効な対策を検討する。

ii. 方法

論文の文献検索には医中誌 Web を使用した。2020年に感染流行が始まっており、2022年1月現在では論文発表数は非常に少ないと推測されたため、発表時期は特定せずに原著論文および症例報告・事例、解説・総説を含み、会議録は除いた。新型コロナウイルスに対する保育現場の実態に関連する文献に限るため、「新型コロナ／AL and 育児／TH or 保育／AL」の検索式でヒットした文献の中から、院内保育や病児保育、家庭での子育て、妊娠婦支援や地域支援の文献を除いた。その後、各論文を注意深く読み込み、意味内容の類似性に基づき分類を行った。

iii. 結果

新型コロナウイルスに対する保育園での対策の実態と課題という目的に適した文献として19件の文献が得られた。原著論文2本、総説1本、解説／特集15本、医師によるQ & Aが1本であった。また、著者所属として保育現場で勤務の著者からの報告は2本、看護学部や教育・人間科学系所属が4本、小児科医が16名であった。保育現場の対策の実態として、5つのカテゴリーに分類でき、カテゴリー名は「手洗い指導・マスク着用」「専門家による啓発活動」「感染者（発端者）」「家庭への影響」「子どもの心身への影響」であった。

iv. 考察

わが国における保育現場の実態と課題に関する研究について、現場看護師からの研究は見当たらず、医療・看護の専門家による解説が多いことから、保育園看護師は各園の園長や保育士と連携し、専門家に相談しながら対策を講じていることが推測された。保育園での看護の実践家同志、横断的つながりの必要性も感じられた。保育園看護師としての活動実態や課題は明らかではないため、今後期待される。